

# 研究発表要旨

## ダンス学習指導に関する研究(2)

佐分利 育 代

個別化と普遍化の問題を含む創作活動としてのダンス学習において何が基礎的におさえられなければならないか。

今回の指導要領改定において、「ダンス」は小学校では、「表現運動」と名称を改め、その技能として、「感じを表現するための動きを工夫して楽しく踊れる」ことがあげられている。この名称改定とねらいの方向は、二つの意味を持つと考えられる。すなわち、そのひとつは、学校におけるダンスがその行為的、経験的側面を直視したことによって、より芸術の領域に近づいたということであり、もうひとつは運動特性を前面に押し出したことにより、体育にお

けるダンスの位置を明確にしたことである。そして、これらが示すことは、学校におけるダンスは今後ためらうことなくその芸術性を発揮すれば良いということではないだろう。

そこで改めて、「創作活動として何が教えられるか」が重要な問題となってくる。

### 1. ダンスの学習内容

ダンスにおける技術の考察をもとに、ダンス学習において、技術として何が教えられるかを、過去の資料より検討した。その結果、ダンスにおける技術は、媒体、すなわち身体運動の持つ一般的な感情表出性についての知識であるとの視点を得、各学年での技術を図1のようにとらえた。このダンスにおける技術と、素材としての身体づくりの技術が、ダンスの学習内容としてとりあげられるものである。

また、図2は各学年における技能である。技術はこのような段階をとって技能として身につけられる。そして、「創る」「踊る」「観る」を統合した、「表現できる」としてのダンスの技能の段階は、①とらえられる、②続けられる、③変化させられる、④まとめられる、のように設定できると考えた。

### 2. ダンス学習指導の実践

学習内容具体化の手がかりを得るために、先の技能の段階に基づき、「各段階での表現」を目標にした学習指導を行なった。

学習者は、鳥取大学教育学部小学校教員養成課程二年生(155名)で、4回(100分×4)の学習指導を行なった。この4回の内容を、(1)いろいろのものの動きの特徴を見つける、(2)ひとつのものの

				中核・盛り上がり・まとまり
			フレーズ	
変 化				
			力 性	
時間性	(運速) (長・短)		(くり返し)	
	(リズム) (連続)			
空間性				
形態性				
低 学 年	中 学 年	高 学 年	中 学 校	高 等 学 校

図 1. 各学年における技術

高 校					自主的な発表会	自主的な発表会
中 学 校		変化とまとまりのある作品			表現意欲すな	鑑賞
		感じにふさわしく、フレーズを変化・発展	思い切り出しきって、踊れる			
高 学 年					練習し発表	
		動きで表現するにふさわしい題材をみつけて	盛り上がりのあるまとまり	自己の表現意図を伝えられる	集団の動きでとらえて	できばえをたしかめ修正
中 学 年						
		変化をもたせながら続けて	変化をもたせながら続けて			
		感じの特徴	組み合わせ	感じのある動き		
低 学 年						
		長筋に従って	調子良く	役をかわりあって友達と工夫		
		動きの特徴	沢山に	大きくのびのびと	仲良く	好ましい(みる)
		題 材	創 る	踊 る	集 団	意 欲 観 る

図 2. 各学年における技能

いろいろな場面の動きを見つける, (3) ひとつの場面のいろいろな動きを見つける, (4) (3) で深めた場面を中核とする作品にまとめる, のように具体化し, 配当した。そして, 学習を通しての作品に対する学習者相互の評価を中心に考察した結果次のような手がかりを得た。

1. ダンス学習における技能の段階は, ①とらえられる, ②変化させられる, ③まとめられる, とした方が実用的である。
2. 「①とらえられる」段階において, 初心者では特に, イメージと動きの間に動きを表わす直接的な言葉による動きのイメージが必要である。
3. 「②変化させられる」段階において, 沢山みつけ

られることが重要であるが, もっと重要と思われることは, 何について沢山みつけなのか, さらに, みつけた中から何を選ぶかについての方向づけである。

4. 学習を通してより多くの題材と接し, 世界を広げる機会を持つことは必要であるが, 時間が限られ, 限られた題材による表現しか経験できない場合でも, そのことによって学習者の題材選択の範囲を狭めることにはならない。
5. 今回の学習では, グループ作品においては, 動きのアイデアや構成のおもしろさに, 個人の作品では, 踊り方に興味をもった。

## 舞踊用語に関する研究Ⅱ

松本千代栄 山田 敦子  
大熊琴月枝 本間 清美  
名須川知子

### 〈研究目的〉

用語の確立は, その分野の研究と教育の発展のために必須のものであることは言うまでもない。舞踊は現象としての存在というその本質上, 用語の確立はより強く望まれている。

本研究は, 研究Ⅰ<sup>1)</sup>にひきつづき, 舞踊創作に関する用語の抽出分類を行い, 用語とその構造を明らかにしようとするものである。

### 〈研究方法〉

日本における舞踊創作の研究教育書5著(加えて昭和22~53年学習指導要綱及要領)をとりあげ, 研究Ⅰと同じく用語を抽出し, 同義・類似語に群化し, 代表語を選んで分類表を作成した。分類項目は次の7項目。

- I 身体に関する用語
- II 基礎的な身体運動に関する用語
- III 舞踊運動形成に関する用語
- IV 作品形成に関する用語
- V 美的原理に関する用語
- VI 演出計画・演技に関する用語
- VII 学習・指導に関する用語

用語分類表は, 用語の頻数(使用頻数にかゝらず1語を1とした。)を4段階に分類し, 項目Ⅰ~ⅤⅥ~Ⅶ別に語義により三段階に分類した。(Ⅰ~Ⅴ項目では, Aは項目の全体をカバーする用語, Bは細分化された働きを示す用語, CはA・Bの基底にあり, その働きを司る用語)

(表1) 項目別用語頻数表

項目	頻数 用語総数	内 訳		
		A	B	C
I	102	19	58	25
II	311	40	247	24
III	253	(S)34	100	27
		(T・E)31	32	29
IV	263	73	156	34
V	124	23	59	42
VI	160	(a) 21	(b) 139	0
VII	181	(a) 97	(b) 51	(c) 33
計	1394	338	842	214

### 〈研究結果と考察〉

#### (1) 項目別用語頻数

表1にみるように, 用語総数1394語の中, 項目Ⅱ基礎的な身体運動, 項目Ⅲ舞踊運動形成, 項目Ⅳ作品形成に関する用語の頻数が高い。

#### (2) 項目別用語の内容(学会提出資料P.1~29参照)

項目Ⅰでは“全身”(A), 身体的主要な部分名称(B)“機能・感覚”(C)があげられ, “視覚”の重視は用語上にもみられる。(表2参照)

項目Ⅱでは, 舞踊運動をあらゆる用語, 自然運動, 日常動作に類する用語の3つに大別される。運動の質をあらゆる用語とそれを実現する運動に関する用語がみられる。(表3)

項目Ⅲでは, 運動を舞踊運動として形成するための働きがあげられ, 時間と力, 空間の要因に大別さ

れる。空間では、空間運動と空間構成の二柱にまとめられ、時間と力では、運動の時間構成に関し、リズムとエネルギーの柱にまとめられるとみられる。時間関係の用語は音楽と共有している語が多いので、細分化されているが、力関係の用語は細分化していない。(表4～5)

項目Ⅳでは、舞踊の創作に関する働きが、“創作過程”“創作活動”“作品”“鑑賞”の創作、その伝達、享受の構造にまとめられる。(表6)

項目Ⅴでは、美的原理に関連した、より原理的な働きは(各項目に直結していると認められる用語は各項目C類においた。),“変化と統一”“様式”“形式”に大別され、その性質上5著書に共通の用語が多く認められた。(表7)

項目Ⅵについては、舞踊を演出計画・演技の観点からみたもので、音楽をのぞいては、“照明”“衣装”などには、精細な用語の分化がみられず、舞踊の芸

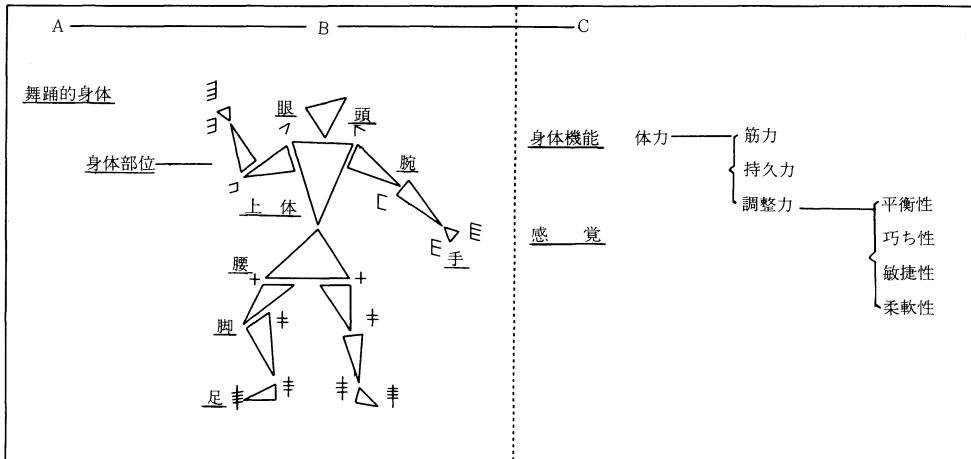
術と教育に関わる分野として上演法研究の必要が認められた。(表8)

あげ、目標・内容・方法・対象の柱に分類した。用語は全般に教育の側からの関係書に多く、芸術の実践的側面からのトレーニング、レッスン等に関する技術用語は少いと認められた。(表9)

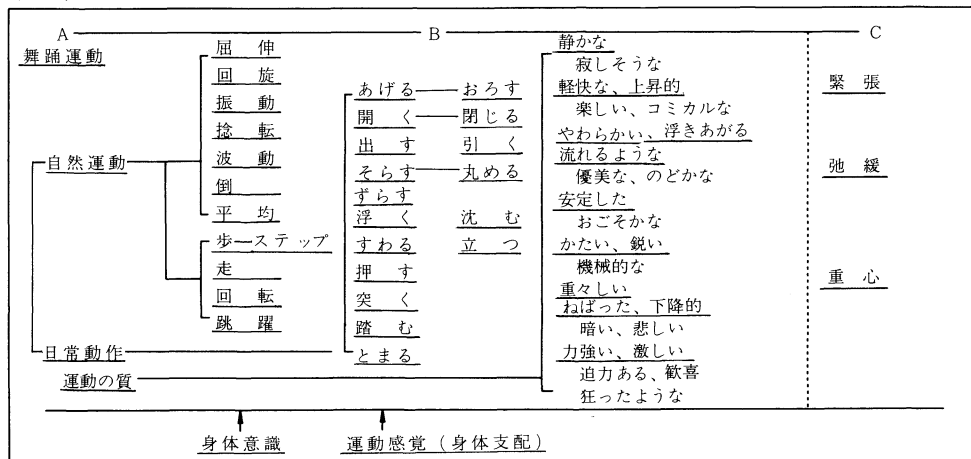
以上、全体を通して頻数の高い共通語は、各項目の基本的な角度をほぼ網羅しているとみられ、細分化された用語は、代表的の同義・類義語として含まれると認められた。舞踊創作の本質に関わる問題として、Technical Terms は芸術家の個性とともに生成され、発展または消滅する独自の側面(例えば、GrahamのContraction & Iereas等)をもつことをあわせ考えつゝ、本研究結果からは、舞踊研究と教育を普遍的に推進するものとして、各分類項目の代表語から推考して、舞踊基本用語を導き出す柱と構造を、次表のように作成することができた。

項目Ⅶでは、舞踊の学習・指導にかかわる用語を

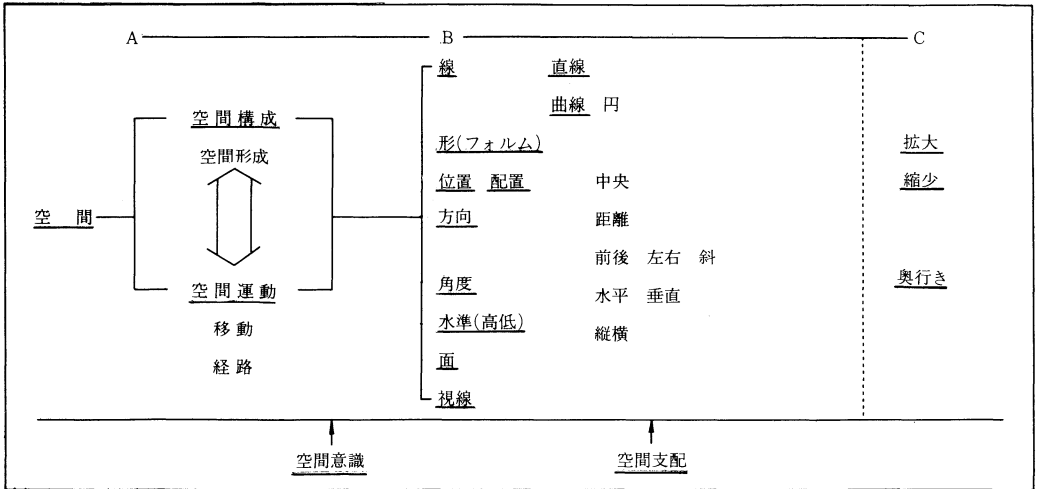
〔表2〕Ⅰ 身体に関する用語



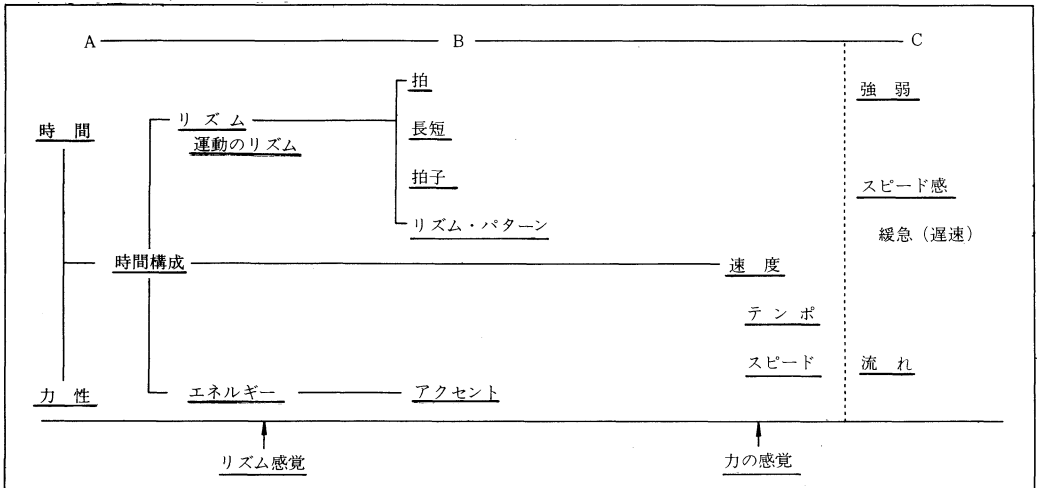
〔表3〕Ⅱ 基礎的な身体運動に関する用語



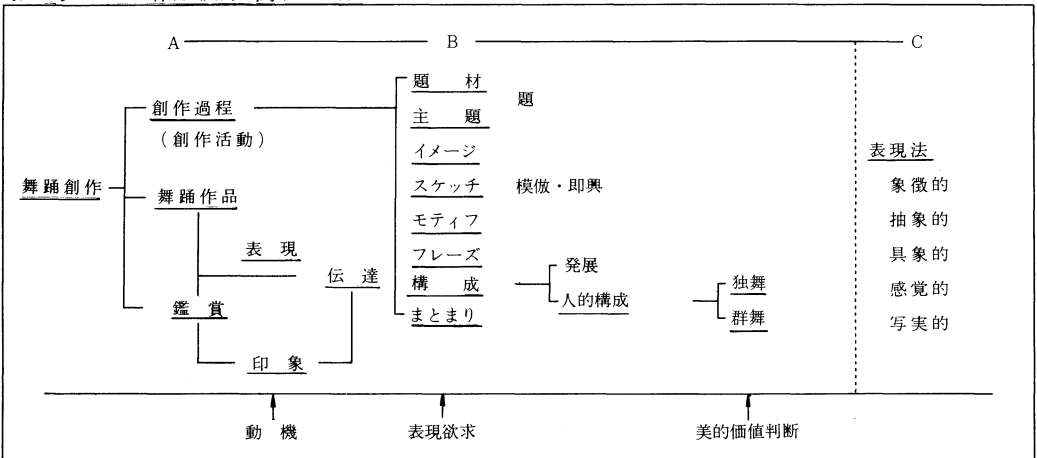
【表4】 III 舞踊運動形成に関する用語



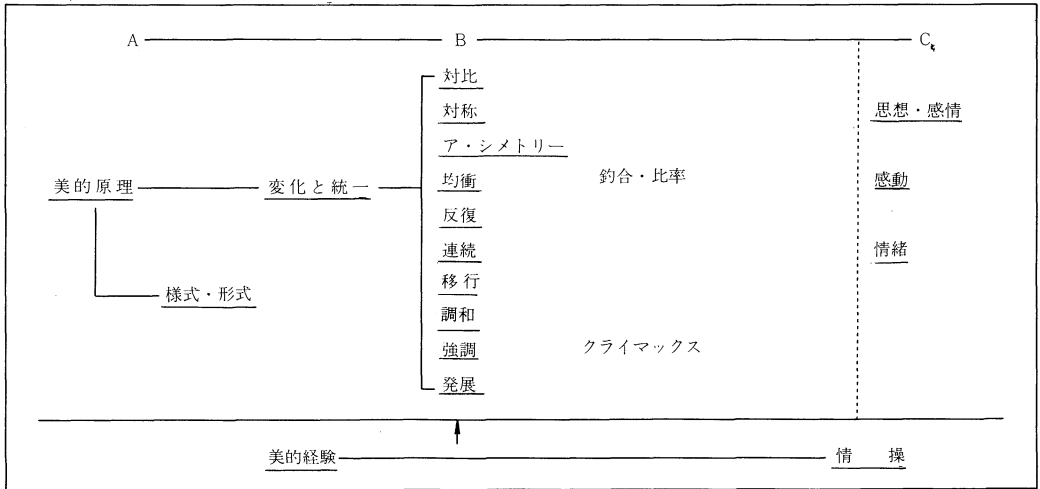
【表5】 IV 作品形成に関する用語



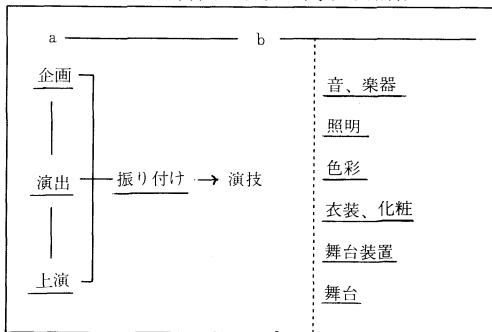
【表6】 IV 作品形成に関する用語



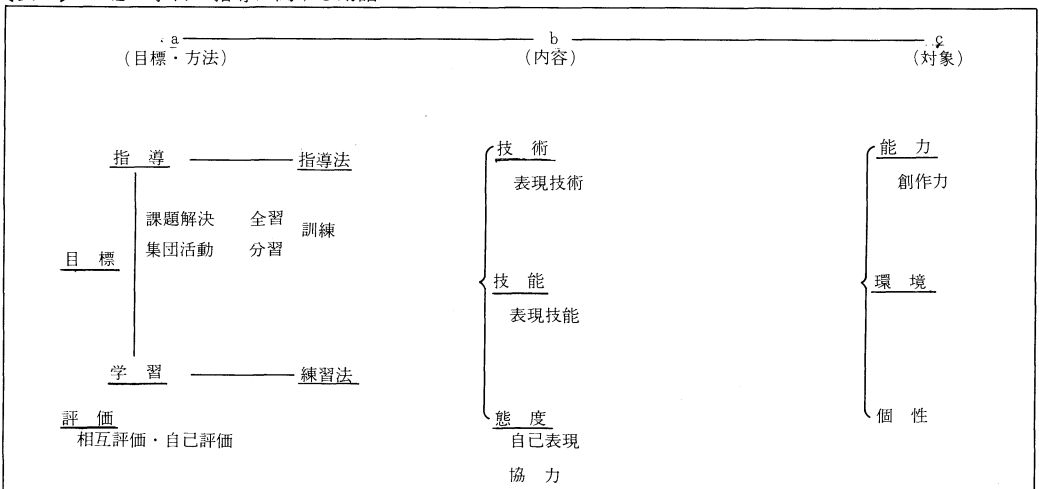
【表7】 V 美的原理に関する用語



【表8】 VI 演出計画・演技に関する用語



【表9】 VII 学習・指導に関する用語



- (注) 1. 第2回舞踊学会発表、ダンスワーク20号  
 2. 表2~9の下線は基本用語を選択する柱である。